



主体的に自己の健康管理や
生活習慣を身に付ける子どもの育成
～自ら課題を追究・解決できる活動を通して～

岐阜市立長森東小学校

本校は、全校児童484名の中規模校です。
学校教育目標「共に生きる～ゆたかに・かしこく・たくましく～」をもとに、自らの歯と口の健康づくりを大切に、よく噛み・よくみがき・よりよい歯をつくる子を目指し教育活動を進めています。

研究内容1 一人一人の実態把握
主体的に学ぼうとする導入の工夫

子どもが意欲的に課題解決に取り組めるよう、必然性のある課題設定を工夫した。

1年生「何でもよくかんで食べよう」では、事前に給食の好き嫌いアンケートを行った。通常の給食の残菜量とアンケート結果を結びつけて課題意識を高め、よくかんで食べる大切さを追究した。



4年生「白歯をみがこう」では、プラークテストの結果から、思っているよりみがけていないことに気づき、「もっとしっかりみがかなければ。」と危機感を感じながら、歯ブラシの使う場所や動かし方を追究した。



研究内容2 主体的に課題を追究する場の設定
指導・援助の具体化

教師が知識を与えるのではなく、子ども主体の追究での気づきを大切にした学習過程を展開した。



3年生「前歯をきれいにみがこう」では、この時期に永久歯に生え替わる白歯は、形状からみがき残しが生じやすいため、一人一個の歯の模型を使って、歯ブラシの当て方や動かし方等を追究し、正しいみがき方に気付くことができた。

5年生「歯肉炎と体の健康」では、A児とB児の一日の生活の様子を見比べることで、歯肉炎を予防するためには歯みがきだけでなく、食事や睡眠等の生活習慣も見直す必要があることに気付くことができた。

特別支援「1本1本でいいにみがこう」では、各学年の発達段階を踏まえた個人課題を設定し、意識させたい部分を意識できるように意図的な声かけをすることで、自分のみがき方のよさに気付くことができた。

研究内容3 自分の生活につなげる場の設定

本時の学びを継続的な実践につなげるために、自己を見つめ直し、個々のめあてを決める場を設定した。

2年生「歯や口のけがを防ぐにはどうすればいいだろう」では、日常の何気ない行動が大きな怪我につながる可能性があることと分かり、安全な学校生活のめあてを決めて取り組んだ。



6年生「骨や歯を丈夫にする食事を考えよう」では、成長期に骨量を増やすカルシウムを摂取する大切さを知り、「さしかえる」「くわえる」「つけたす」をキーワードに各自が家庭の朝食を見直した。



令和3年度

学校での歯みがき活動の再開
フッ素洗口時のPTAボランティアのサポート
はっぴか通帳の取組(各家庭の歯みがきの充実)等

令和4年度

コロナ禍における歯みがき活動の見直し
発達段階に即した年間指導計画の見直し
家庭での歯みがきの啓発(委員会・PTA)等

児童委員会

☆保健委員会

- ・歯みがき教え隊(給食後の歯みがき)
- ・歯は八話(昼の放送や動画)
- ・歯っぴか通帳
- ・歯の紙芝居(動画)
- ・あいうべ体操
- ・ペロペロペロリン体操



☆図書委員会

- ・歯に関する本の読み聞かせ
- ・図書館に歯の本のコーナー設置



☆給食委員会

- ・かみかみメニューを紹介



学校歯科医などと連携

☆専門的立場から授業に参加

- 6年生・・・「将来の自分にむけて」
- 1～5年生・・・学年に合った歯みがきの仕方などの指導



☆給食訪問



☆ハイリスク者への歯科検診と個別指導

☆教職員研修



家庭・地域との連携

☆PTA 保健体育委員会による親子活動

- ・親子歯みがきカレンダー(夏・冬休み)
- ・ファミリーふれあい歯みがき(親子カラーテスト)



☆見守りボランティア活動

- ・朝のフッ素洗口
- ・給食後の歯みがき

